禁裏御所御用日記

826
371
91

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

寛政元酉年十月

大嘗會日記

帝國圖書館藏

五〇八

十三

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

一四日十二ヶ条目ヨリ大膳大夫殿ヨリ左之通
御尋申入候ニ付御報申入候
十三日丁卯
一御所様太刀ヲ御召参内ニ付御供申上候
十四日戊辰
一大膳大夫殿ヨリ御出ニ付御対面申上候
一大膳大夫殿ヨリ御出ニ付御対面申上候
十五日己巳
一大膳大夫殿ヨリ御出ニ付御対面申上候
十六日庚午
一大膳大夫殿ヨリ御出ニ付御対面申上候
十七日辛未
一大膳大夫殿ヨリ御出ニ付御対面申上候
十八日壬申
一大膳大夫殿ヨリ御出ニ付御対面申上候
久我大納言殿奉行ニ而一献有之
七ツ人ヨリ行有之候而一献有之候
夕陰ニ御帰宅候

大正 6. 4. 13 購求

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

十四日 申晴
一禁中六日間都卜定ノ事有之
兌
一亜相卜定ノ日次ノ事有之
一高家ヨリ迎吉兵衛ヲ安倍宮内ノ事
一二条各ヘ御番頭ヲ以テ吉兵衛ヲ同ク
仙ノ事
一宣陽殿南方築間ヲ以テ吉兵衛ヲ
一吉兵衛ヲ以テ御番ノ儀ヲ入御ニ
玉觿家
諸書
久我家
雑書

十五日 乙酉晴
一禁中六日間都卜定ノ事有之
一亜相卜定ノ事有之
一高家ヨリ迎吉兵衛ヲ同ク
一二条各ヘ御番頭ヲ以テ吉兵衛ヲ同ク
一宣陽殿南方築間ヲ以テ吉兵衛ヲ
一吉兵衛ヲ以テ御番ノ儀ヲ入御ニ
玉觿家
諸書
久我家
雑書

十六日 丙戌晴
一禁中六日間都卜定ノ事有之
一亜相卜定ノ事有之
一高家ヨリ迎吉兵衛ヲ同ク
一二条各ヘ御番頭ヲ以テ吉兵衛ヲ同ク
一宣陽殿南方築間ヲ以テ吉兵衛ヲ
一吉兵衛ヲ以テ御番ノ儀ヲ入御ニ
玉觿家
諸書
久我家
雑書

十七日 丁亥晴
一禁中六日間都卜定ノ事有之
一亜相卜定ノ事有之
一高家ヨリ迎吉兵衛ヲ同ク
一二条各ヘ御番頭ヲ以テ吉兵衛ヲ同ク
一宣陽殿南方築間ヲ以テ吉兵衛ヲ
一吉兵衛ヲ以テ御番ノ儀ヲ入御ニ
玉觿家
諸書
久我家
雑書

十八日 戊子晴
一禁中六日間都卜定ノ事有之
一亜相卜定ノ事有之
一高家ヨリ迎吉兵衛ヲ同ク
一二条各ヘ御番頭ヲ以テ吉兵衛ヲ同ク
一宣陽殿南方築間ヲ以テ吉兵衛ヲ
一吉兵衛ヲ以テ御番ノ儀ヲ入御ニ
玉觿家
諸書
久我家
雑書

十九日 己丑晴
一禁中六日間都卜定ノ事有之
一亜相卜定ノ事有之
一高家ヨリ迎吉兵衛ヲ同ク
一二条各ヘ御番頭ヲ以テ吉兵衛ヲ同ク
一宣陽殿南方築間ヲ以テ吉兵衛ヲ
一吉兵衛ヲ以テ御番ノ儀ヲ入御ニ
玉觿家
諸書
久我家
雑書

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

卜定ニ付御役所より進上之
一 内侍所へ　生鯛折　二尾　御使番衆
一 仙洞御所へ　生鯛折　三尾　御樽一荷　御目録　御奏者
右御使ハ御届物ニ付　御使　小佐治三河守
一 大宮御所へ　生鯛折　二尾　御奏者　右同人
右御使ハ御届物ニ付
一 仙洞御所へ　干鯛一箱　御樽一荷　御奏者　御使番衆
右　奏者所へくら上ケ此之
一 大宮御所へ　生鯛折　二尾　御奏者　御使　小西和泉守
右両御使者奥へ上ル御届物ニ付
一 国郡卜定　近江志賀郡　松本村　丹波桑田郡　並河村

右之通御注進之ニ付　奏者所へ上ル
一 御庭拝借奥表へ御附衆御悦ニ上ル　正名
一 未刻御神事ニ付解除諸役所中へ触之
九月二日甲申晴
一 近江国志賀郡松本村　右者卜定ニ付御役所ニ　被呼出為申合
今晩宮判右ニ小佐治三河守并吉田丹下ゟ吉田左京家来
両人も呼出茶やニ而詰合此所ニ而同人論事元文三年之時
之趣を石見守被相渡又渡辺河内守被勤候之書面
委細書抜一冊ニ添之渡ス事
石山信濃守
小佐治三河守
三日乙酉　雨　子刻比ハ風吹　未刻止
一 荒神川殿之〇ニ近衛殿より御内々御届有之〇いまた
り候ハ御注進之ニ付右之前度之通合申し右之樽ニ町奉行衆
一〇ニ付進合之儀大用会所ら伝ル信濃守〇之御附衆へ入ル

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

一丹乙並ニ村人今朱判ニ而
廿七日ニ開ク
一久我前右大将殿ヨリ遣例ニ而ハ別ニ
大納言殿ヨリ参賀ニ付
行事
廿九日辛亥晴
一今日別当ヨリ荒乙川ノ桜ヲ献
有之ニ付
一石乙松ヲ村ヨリ野大内ヘ献上
金弐百疋
金百疋
一丹乙並ニ村
金弐百疋
銀弐枚
銀三枚
小堀十左衛門
吉田修理
諏訪ノ神
一丹乙並ニ村
金弐百疋
銀弐枚
銀三枚
諏訪ノ神
吉田修理
小堀十左衛門
一百疋ヲ桜勘ヨリ代ヲ以桜献上
大喜今日ヨリ
一大華会ヨリ通ヲ以大内ヘ禁中ヲ
御番衆ヲ以ヲ
十月廿九日

十八日己亥晴

一 十一月三日大嘗会由奉幣発遣如此

上卿 大炊御門右大将　参議 三條宰相中将

辨 万里小路弁

奉行 小佐治三河守

一 石清水社使 晩翔大納言　次官 清岳大蔵大輔

一 賀茂社使 勧修寺中納言　次官 藤井治部大輔

右之通ら伝奏より以折紙書付ヲ以被申聞候ニ付当番へ申達ス事

廿日辛丑晴

一 大嘗会ニ付当月廿八日朝ゟ十二月朔日朝迄御神事之旨　桐井但馬守

此方より御附へ申入候所、御附衆より書付ヲ以申聞之

大嘗会御神事中御簾中之間、伏見宮家之御法事等ハ停止之

事 御文一ノ為停止事

但し秋祭等ニ梅ノ宮稲荷之祭礼之儀ハ苦ゟ不申

右之例ニ通り候ニ付御門中ニ申聞之

廿一日壬寅晴

一 来ル廿八日朝ゟ十二月朔日朝迄御神事中女中方并女房

出仕之者ハ御神事中女房下女御門番所ニ而女中部屋

出入之者ニ申付、女中門ニ而一ノ如く書付差出候

一ノ中ニ有　　小佐治三河守

右之通書付今日番頭へ申聞

其外御附衆へ申通ス事

一 御神事中御所中ニ而火ノ用心之儀厳敷被仰付候様

右之通書付ヲ以申聞候所

是ハ各存之事

一 御作事方并下役之者共　　寺沢文治

右之通ゟ申渡ス

右同刻晴

一 御庭地廻り之者ニも御神事中不浄之者罷出候儀停止之事　右山田源之守

一　諸勅使之儀尾張守殿ゟ伝奏衆へ申達候事

右大嘗会ニ付諸卿ゟ諸司伝奏衆ゟ通達候へ仰渡候ニ付来ル廿八日中諸卿
[illegible]

十月廿八日

右之書面月代町奉行所ゟ御所町中ゟ相触候

桜井但馬守

廿七日　申　晴

一　大嘗会御神事中忌詞

仏ヲ　中子（ナカコ）　経ヲ　染紙（ソメカミ）　寺ヲ　瓦葺（カハラフキ）　塔ヲ　阿良々岐（アラヽキ）

僧ヲ　髪長（カミナガ）　尼ヲ　女髪長（メカミナガ）　斎ヲ　片膳（カタシキ）　死ヲ　奈保留（ナヲル）

病ヲ　夜須美（ヤスミ）　哭ヲ　塩垂（シヲタレ）　血ヲ　阿世（アセ）　打ヲ　撫（ナズル）

宍ヲ　菌（シサヒラ）　墓ヲ　壌（ツチクレ）　[illegible]ヲ　菌（ツノ）　堂ヲ　香焼（カウタキ）

優婆塞ヲ（ウハソク）　角筈（ツノハツ）

右之通ゟ仰出候御門中へ書付を以相触候所ニも書付を以申触候

一　御神事中路頭僧尼之名前

忠利事　山本宰相　　通善事　浦野雅楽　　玄安事　親康法眼　　信悦事　百々内匠

元悦事　生駒右京　　旧安事　石川蔵人　　二安事　山科右将　　玄三事　上田玄蕃

秋山安事　花山宰相　　京安事　山科内記　　元悦事　増田花内　　元栄事　内藤仲

右御神事中も御門へ出入候ゟ通達候ニ付書付を以相触候

一　右路頭御神中御法度中ハ衣冠著用候法京ハ四不法服又ハ右頭ニ着用之者ハ向後、何レも上下著用し可致

候事之候事元文之付候通也

一九日御門御作事札の朔日より建候 并御築地内
石地蔵之事少々之儀ニ付 何方へ成とも入候様可申候由
府中ゟ申候様御頼ニ付申遣ス

十八日已刻晴
一同十八日御作事へ二ケ所之分今晩ハ下宿ニ付御假御所
御門ゟ又御火の用心申付候事

一大豊御祈 院中御作事奉行の十九日晩ゟ十二月十一日朔 小作所二付
御祈ニ付去八条中納言殿ゟ仰渡候 府中ヘ申来候
元日之年儀事 御所同事ニ付御内申ヘ申来
申遣候事

一成刻御禊 出御ニ付能登国ゟ 清浄被為在候旨 丸
合ニ番御役番勤ニ付 翌月御所御用ニ付 今日二付
一御作事中帳常ニ付 今日奉行へ
下知之ニ付此方へ申遣 御内申ヘ申候事

一御奉申ま付之通 奏者之付之丸 伝奉書を御前之遣ス
伝奏者代 奏者御所 御中山中納言 百旨
代奉文家 鈴中書守 百旨町奉行 中守
御禊御役人ゟ進

一仙洞御所へ 御使 箱 五ツ 青四ツ 御分
右 奏者所へ
一大宮御所へ 生鯛 二尾 御分 御使
右 百旨 ... 蔵人中
右之儀 御所へゟ進
一内侍所へ 生鯛 二尾 御使蔵人
一仙洞御所へ 右 同 〃
一大宮御所へ 右 同 〃

一大嘗會御供米　米弐俵　五条院入
　　粟弐俵　右以
　大御所御方幷御進御奉膳女房
　御門主尊胤法親王御使を以被
一今日總記主基御殿造立始被行
一大嘗會御前次第幷悠紀
　次第御覧被行奏慶奉行
三日奏之
一由奉幣使　卯一天陳儀
　出御云々小御所
　出御云々　出御方心得同
　前云々　午剋
　御門主尊胤法親王
　無位
　稲井佐馬守

一今日従上卿大炊御門右大将　参議三条実中将
　弁一乃至如例
一今日従東御所被参候
　仙洞御所
　仙洞御所　御書
　院参衆御所
　大宮御所
　門跡
　右以
　七日丁巳晴
一大嘗會御祭供奉人数
　仙洞御所
　二位
　侍
　小倉三位
　大宮御所
　生駒
　門跡
　右以
　七日丁巳晴
一大嘗會御祭供奉人数

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

一大典侍殿御方へ
一大典侍殿御方へ
一仙洞御所へ
一仙洞御所へ
一大宮御所へ
一大宮御所へ
一仙洞御所へ
一仙洞御所へ
一大宮御所へ
一大宮御所へ

十四辛酉晴
一昨十三日己刻別紙御所労御尋ニ付
小倉三河守
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
十五壬戌晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
十六癸亥晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
十七甲子晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
十八乙丑晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
十九丙寅晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
二十丁卯晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
二十一戊辰晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
二十二己巳晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
二十三庚午晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
二十四辛未晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
二十五壬申晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
二十六癸酉晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
二十七甲戌晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
二十八乙亥晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
二十九丙子晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル
三十丁丑晴
一大聲宮為御見舞別紙御尋ニ付
土御門泰福朝臣
一今朝泰福朝臣参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一卯四刻参殿ニ付別紙御尋ニ付
勧修寺宰相中将
一自辻番所ノ角到南側築地ニ
吳竹ヲ入石垣ヲ突ヒ流レ出ル

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

一 節會御參役之公卿 參內 并 陣 外記 史 召仰 事

一 遣使 奉 宣陽殿 自 西 廊 參 內 侍 宣 仰 事

一 ら 物 代 陳 座 ら 辺 下 給 事 ら 奉 ら

一 月 花 門 ら 辺 宣陽殿 ら 南 廊 殿 ら 古 昇 御 ら

昇 ら 仰 ら 奉 ら 參 ら 侍 ら 宣 ら 仰 ら 事 ら

如 ら 入 ら 役 ら 二 ら 為 指 ら 事 ら

一 古 昇 ら 事 ら 奉 ら 高 聲 猴 ら 間 ら 役 ら 仰 ら 事 ら

一 清 暑 堂 ら 神 ら 事 ら 役 ら 公 ら 參 ら 自 ら 内 侍 ら 剣 ら 璽 ら

陣 ら 座 ら 着 ら 事 ら

一 日 花 門 西 南 廊 ら 間 ら 立 ら 入 ら 事 ら

一 十 七 日 ら 殿 ら 門 ら 奈 ら 宣 ら 事 ら 參 ら 居 ら 動 ら 奈 ら 内 ら 豎 ら 奉 ら

訓 ら 比 ら 為 ら 四 脚 ら 門 ら 開 ら 廊 ら 間 ら 事 ら 陣 ら 外 ら 下 ら

立 ら 奈 ら 御 ら 前 ら 事 ら 奉 ら 仰 ら 參 ら 侍 ら 書 ら 事 ら 奈 ら 下 ら

一 御 幸 ら 来 ら 訓 ら 還 ら 幸 ら 申 ら 事 ら 前 ら 御 ら 為 ら

ら 御 ら 前 ら 次 ら 頭 ら 次 ら 未 ら 為 ら 御 ら 返 ら

鈴 ら 事 ら 深 ら 奉 ら 次 ら 内 ら 記 ら 中 ら

一 院 御 所 ら 御 成 ら 前 ら 進 ら 奉 ら 先

井 ら 三 位 ら 生 ら 剣 ら 璽 ら 二 ら 應

一 ら 奉 ら 御 ら 奉 ら

一 還 幸 ら 後

御 ら 奉 ら 二 ら 應 ら 御 ら 奉 ら

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

一右院御所ニも進入之

一還幸以後刻限書小奉書四折ニ認、議奏御月番へ
参候新大典侍ヲ以申入候也、議奏衆へ被渡候

西院麻上下　柳原但馬守

十三日癸亥雨下

一大典侍殿為御見舞午刻過長橋御局へ被参、牧野備後守上京ニ付
上京之御門出之御門玄関ニ而御迎之御通、伝奏衆柳原殿ニ而
御対面之上以後御茶菓子御吸物御酒被下、御口上ニ付被為
出候御所衆宿所ニ而御会釈御対面ニ付御口上ニ而御口上有之
出候而御使衆ニ而御座候ニ付御取次御礼申上、御用懸衆
ら入申上候御使参候、らハらヘ候

一大典侍殿御方々御用御座候ニ付御門中御番所ニ而御奥へ御出
一大典侍宮御方々御対面被為 御中 長橋御局中納言殿 御内侍殿ニ而御待

右之趣

十四日甲子陰

一議奏衆ゟ御所衆御家来へ書付被渡　小佐治三河守
来ル十七日大典侍殿午刻　十八日一条殿御参午刻
十九日近衛殿辰刻　廿日豊岡殿午刻

来ル十七日御事水御陪膳　正親町殿中将　坊城殿弁
　　御役送　　日野西弁
解斎御粥御陪膳　坊城殿弁
　　御役送　　清閑寺弁
　　御手長　　清閑寺弁

一大典侍殿御礼参内之節、御所衆宿所ニ而御対面
西院麻上下

十五日乙丑晴

一御参内午刻、還幸酉刻前後、伝奏衆、議奏衆、土山淡路守、参上御所ニ而

此節者両伝奏衆非蔵人口　九条殿家衆官位席ニ而両伝奏衆御修理職之
御見送り御勢ひ之由也
一還幸之節後刻限書附之通伝奏衆より申上ル、御伺候
御番頭衆奏者所ニ而相済
一院御所々御殿前ニ而還幸申上ル　　　御役番
生駒石見守　二条御参候　　　　　　　御使者
一還幸之節御所々より還御申上ル
御参候
海老名石見守　二十御跡ニ而　　　　　御役番御使者
一同十六日御幸巳刻御行幸行啓
昨夜七ツ御幸未刻　御同刻　行啓
右之通議奏衆より伝奏ニ付此附所より申入候　十五日以当番

御道之儀ニ而御門々家来内殿、以入十二日ニ御門様ニ而廣御門々
家来内殿ニ入ニ御内中々御内事ニ候
十八日　西
寅晴　　　　　　　　西播磨守　櫻井佐渡守
一院御所々御普請所　試　　　　御役番御使者
一大宮御所々御普請所　試　　　太田
太田御殿之儀御普請御役御勅之儀ニ而御筆、記申上ル
一御幸午刻還幸伝奏申之刻九条殿鈴木出羽守両伝奏
伝奏衆申上之趣還幸御所へ送之候伝奏衆ニ[illegible]
此所両伝奏非蔵人口例
一行啓御日刻還御申之刻九条殿伝奏衆[illegible]
還御送り此附衆両伝奏非蔵人口例
一還幸還御御後刻附書御所之通但例此当番

議奏衆もらん

十七日丁卯晴 寒入

一大寒ニ付御當り之

一仙洞御所へ 紗綾五巻 折提中十合 御樽十荷 眞

　右御使八条中納言殿 副使 渡辺源次守

西條賀州 小佐治三河守

一大宮御所へ 綿十把 昆布一折 干鯛一折 鰑一折

　御樽二荷

　右御使成之ニ付 女中方御使 山科少将 番頭

　右御席南方所役衆へ遣ス之

一内侍所并御所々 鴨一折 鰑一折 十連 昆布一折 十把

　御樽二荷

　御使番頭取

一大嘗會御禊行幸ニ付 ... 公卿 殿上人 ...

一御幸申刻還幸 行列 ... 御門より

御行列如左

御先拂

同心 ... 与力

同心 ... 与力

此間 拾弐 殿上人

實胤 布衣 並務 番頭

實遠 布衣 出務 番頭

布衣 出務 番頭

布衣 並務 番頭

布衣 出務 番頭 行忠朝臣 布衣

布衣 並務 番頭 布衣

出務 番頭 布衣 出務 番頭

並務 番頭 公卿 同心 布衣 並務 番頭 皇太后宮権大夫

布衣 出務 布衣 出務 白丁

布衣 新免 並務 権中納言 布衣 並務 白丁 御児 御供

并人数 一 御車 一 藤宮 紀治通 石次代 琉亮 皇太后宮

後乗 近侍

上﨟局 成光 近兼 下﨟局 資邑 良梁 藤原成之政
上﨟局 相堅 下﨟局 頼益朝臣 保倫 光興
御後官人 肴翳長 次丁 素襖 白丁 以前大刀帯
肴翳長 次丁 是知 素襖 白丁
小侍従 賢兼 左面朝臣 同上 いい
藤中納言 与力 同上 いい
山口蔵人房ち
右御物返ゟ 奏者役 奏者より 御所在所次将殿下
御返りゟり
一御手水御通り 院御所 御門ノ向ゟ御返り
右ハ西ハ八条殿前ノ通り 次ニ唐御門ハ其内 殿下ゟ
植木ニ御様上ケ下ニ殿上人 北面人 大宮御所御様ニ在
い北面人ニ勤ニ

一 依奉之 東宮御料理 御菓子下ニ 上﨟局 下﨟局ハ
常ノ御所ニ於テ 直垂 次ニ御酒 殿下御内玄関ニ而
休息有之 ニ而 同前之御随身ニ御酒 殿下従之
従切之 是之 処ニ御所ニ御座候 之御後官人 下級肴翳
其外ニ御酒被下之
一 依奉被成所 御酒吸物 下而以 何も之
御所ニ御酒被下 御歓ニ被下 御酒被下
藤中納言 御役之
山科右府 局玄蕃
一 右之判紙 書付 各衣冠 右判紙 手引
御持参 右之御用ニ 右判前ニ 何も 何も 御座候
等判ニ御下知 事
山科内記

一大嘗会酉刻 出御 子刻過入御 玄輝門ゟ南門
従是右者ゟ日之門 宣陽門番東南掖門前東西幔幕
にて御門之幔幕なし
一紫宸殿南階 并高欄之分三階門仮番階鎖之
一南殿東西幔幕張候之西刻 上段まて 南門西方
門并紫宸殿之侍宜陽門内ニ相詰人数にて
相詰 月華門ノ御門ニ掛させ置候 所々相詰
石灰之所詰出候
一十八日未刻 十九日巳半刻 御車寄之番御奏者所
御徒衆ノ御所へ御徒衆中宮之門ゟ詰之
一大嘗宮之南庭ニて御所枝仕切之御会所前相詰人数勤
衣冠者之御役人 御是 御勢之番頭瀧口之

并之人時之番所出
一南殿之所ノ御左右之人ニて相勤候 右之時詰り
土山信濃守 桜井佐馬之
小役人三宅 小出新右衛門
是者役事之勤役衆中名前加之
一東西中門ノ御并橘樹ノ所相詰人ノ御 内侍所前会所四半所
名之人衆相勤候事対詰り
山中玄蕃頭 土山左兵衛
岸本人休 三宅治右衛門
富久左衛門 桜井主税
桜井兵書之 土山大膳亮
河辺左兵衛
右之通相勤候所五半所九所頃相勤候 右者御所人々之者
之様之御勤役御膳番中役之内官位之有之者 加ゝ

御祝宮内省ニ伺候事
大田代一枚略
一寒中為窺 御機嫌伺之為
名刺 弐枚
一小鴨一折 十枚略 青森雲呑寺
右代官名ニ而 不日ニ長持ニ而
御屋敷へ差出
一徳能主基ニ而殿今晩百番ノ内別紙
一御幸未刻 還幸申刻別紙儀仗
御出門還幸御供奉 別紙
一行啓未刻 還啓申刻 別紙儀仗
御出門還幸御供奉 別紙
一今晩第壱番 宮内省ニ而能楽
内拝ニ而 御出門 別紙
未刻 御帰殿
一大喪令第四条ニ依テ 寒中
為伺 御機嫌参上 節会ニ而
一節会為在之ニ付 参内

依召参入陣腋如常

一献 参入御前如常 奏事了 退出

一献日節會公卿

右大臣 右大将 中納言 信雲 左衛門督 按察納言 春宮大夫 三条中納言 新中納言 右衛門督

宰相中将 九条中納言 三条中納言 右宮内中将

九条中納言時名 辨資興 益之房

九次将 家孝胡床 宗俊胡床 經元胡床

陰義胡床

右次将 實覚胡床 基賢胡床 有補胡床 隆敘胡床

隆治

已四節會公卿

内大臣 三条大納言 綱大納言 信雲大納言

中宮権亮 春宮大夫 春宮権亮 左衛門督

別當 九宰相中将

新宰相中将

大納言時名 辨資興 益之房

九次将 家孝胡床 兼澄胡床 隆義胡床

第四胡床 永武

右次将 實覚胡床 定之胡床 隆古胡床

隆敘胡床 資顯

豊明節會公卿

九大将 一日里第大納言 信雲寺大納言 新大納言

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

侍大納言　皇太后宮権亮　三条中納言中将
右兵衛督　宰相中将　太宰相中将　新宰相中将
廿納言時名　讃岐　説道
尤侍　家孝朝臣　實兼朝臣　俊義朝臣
二位殿胡臣　二位殿胡臣
右次将
實親朝臣　兼久朝臣　實胤朝臣　俊叙朝臣
有業朝臣
右三通中奉書、書写不可代、依例到
包中次指、次第節会奉仕、蔵人頭
書、次第之、仕之上包之、
清暑堂御神楽
本拍子　皇太后宮権亮　末拍子　新三位
笛　實胤朝臣　附歌　按察使
新笙三位　永氏
近衛官人　季能朝臣　忠宣朝臣　久連朝臣
久長　景賢　忠元　忠長
右中奉書、依中次指、上包御神楽奉
時刻、次第、清涼、次第、書写、
次下役人、一奏之事、
一懸紙幕舎　出御　申刻　入御
出御、南門、出御、
一申刻前駈陪従、参上、
仰云、参進、門陣、

伝奏衆出御有之御済之上御附御用部屋ニ罷出、御用番ニ
以宗門之御書面ヲ以表向之御書付を以遣、御祝儀之
以御引取相済候後、又御附武家ニ以宗門之御差出之趣
書付入御覧候後、御附武家へ相渡ス

折 接物 吸物 合

右伝奏御附武家御用人出会ニ而御勝手方ヲ以百疋宛被下之
以前御附ニ而御礼之節伝奏衆ニ而も出会有之候ニ付、御礼
御礼之後直ニ罷出候ニ付、百疋宛被下候

一 出御之節御附武家百疋宛、伝役者ニ付被下候

一 還幸以後則御書付御用部屋新宰相へ御祝儀之
以御用番江伝奏衆より御挨拶之

一 三基節会書付ヲ以則刻 御世話ニ付之

出御之節伝奏衆ニ而御伺之上 出御方へ御届
御用向之儀ハ御用番御役所御用番勤之

一 院御所へ 生御対面二 御所へ御逢被仰付候

一 大宮御所へ 右同断

右何茂還幸還御以後ニ付而御用番相済

一 御庭世話則御附禁裏御附御掃除之事御奉行ヲ以御届候
御用御庭へ御人数之被仰付候旨申聞候 坪井但馬守 立会御附中ニ而

十九日己巳 晴

一 己巳御能節会書付ヲ以則刻是迄ノ表向
出御之節御番二五ツ時過ニ御逢御役番勤之
南門御番衆ニ而差止候之

一 二条殿御附役人役後ニ而御参集ニ而蒲生数右衛門相渡候

刀御下賜ニつき御所司ニ御対面ニ而御礼
申上候事
一院御所ゟ生菓子
一重代ゟ御所江御植木献上
御参内後御所ゟ如意ニ而遣ス
一御番衆ゟ御太刀献上
御参内後御所ゟ如意ニ而遣ス
一行啓未ノ刻還御ニ付御太刀ヲ以御礼
申上候事
一三条節会申刻ゟ御所ニ而
御申刻ヲ入御間刻ヲ陽明ニ而

一申刻殿下ゟ御使ヲ以
「ハ」ノ御用ニ而御参内ニ付
内々ニ而御通節会ニ被召候
入御之後御食ヲ給候
ハゝ御参内ニ而
御食ヲ給候事
一還幸還御以後別紙書御参内
御礼申上候事
一恒例ノ御神楽ニ而
出御ニ而陽明ニ而
一還幸還御以後御所ニ而
御神楽ニ而

進上御役番所日記

一 明廿八日午刻 御幸 行始之由 参府から 何茂 御断候
戸ノ入御 四ツ中 前六つ時 七ツ時済ス
小佐治三河守

廿八日 庚午 晴

一 御幸 未刻前 還幸 亥刻之 儀 奉待中務様や 明日 御中ち
御出 還幸 子刻

一 行始 未刻前 還御 亥刻之儀 奉一同 所 何 御還らる

一 院御所 白 赤飯一荷 昆布一折 十 干鯛一折
御樽一荷 御肴　櫻井佐渡守

一 大宮御所 白 赤飯一蓋 生鯛一折 二尾
御肴
御役番所

右 御所々 御成 前ら 進上 御出来申候

一 内侍所へ 赤飯一蓋 生鯛一折 二尾　御役番所

一 内侍所へ 生鯛一折 二尾

一 院御所へ 干鯛 三相

一 大宮御所へ 生鯛一折 二尾　御役番所

一 当月 御番 三手 二条 御番 同 御番 御役 二条 大御所

右ハ 以 御所 御 御 御 御 御 右 手主 御出

一 御大 札 御 御 御 御 御 御 かの

一 奥 御方 御 方 御 御 御 赤飯 御 吸物

一 言 御 御 人 右 御

一 御構ニ付大沢石見守侍ハ以下同断御門ニ番人差置
非番御用ニ付
一 右之通被仰付御役所ニ而番役御用相済候
一 右所御役伺番役所届候処御差図有之候
右ニ付番役所ニ而御届申候
一 三ケ所与力番所ニ而番役所届ニ付御附衆伺中ニ而相済
一 未刻之後御附伺済之上御出座御門内御修理伺
ニ付通り御伺之上番役ニ而伺中之大納言殿伺済候
後番ニ而通　入御之後伺済之上御用御届申候
一 之迄出迎ニ而之例
一 御会所ニ而申下刻　亥刻済
出御申下刻　入御御用所之御番所御役所番相勤候

出御之上南門前より参上候ニ而
入御以後御番所ニ而　右御届御用聞ニ申上候事
一 亥刻前御所御役所へ罷出御用聞ニ申上候事
一 還幸之後御例之通り　参内当番相勤
番役　参内いたし候
一 未刻之上番所相済候
御機嫌伺之儀申上候
一 還幸還御以後御番所ニ而還御之儀番所相勤
藤井大和守
南大蔵
小林民部
一 所々御用代り御役所ニ而出役人代り
金子弐百疋ニ而書付を以
申上候ニ付御所御役所へ差出候
一 御用所御役
町口能登守

一 綿千把 昆布一箱 干鯛一箱 御所
御ゝ生鯛 二尾

一 大宮御所
十疊三疊 生鯛 御所
御所

一 仙洞御所
純子 弐巻 生鯛 御所
御所

一 大宮御所
縮緬三巻 如 生鯛 御所
御所

一 桜御殿
鈔紙 大巻 生鯛 御所
御所

一 近衛右大臣殿

一 二条関白殿 生鯛 御所
御所

一 九条左大将殿
右同

一 金侍従
一 姉小路中納言殿 右同
一 正親町頭中将殿 右同
武家伝奏

一 柳原大納言殿 右同
伝奏

一 中山大納言殿 右同
一 廣橋中納言殿 右同
一 姉小路中納言殿 右同

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

一芝山宮相公、　おりふし
一永久世之後奉　おりふし
おり大礼の御名代として御代参
一按察宮之方　新侍従御参、
飯と御門主会ノ
一品箱一箱一箱御一箱御一箱
昨日御参堂ノ事
一生絹一疋
一右同断
一生絹一疋
一右同断
一生絹一疋

廿二日壬申晴
一生絹一疋

一生絹一疋
一縮緬一疋
一海苔一折
一縮緬一疋
一生絹一疋

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

一禮ニ
一石ノ
一海老ニ
一海老ヲ
一生鮮ニ

十九日 今晩 板元中
〃 後番 參前番 路次
〃 河俣番 小川俗
御菜掛

為御慶御祝儀
當家親類江
生鮮肴 上田主馬
小林門松 三幅九ツ

一鶴ニ赤

一ニ赤ノ

太刀 内申渡之義ニ付 御使
申ニ而書付ヲ
一仙洞御所
御番衆秋元ニ依ニ今ヨリ石川阿波守
一大宮御所ヘ秋元ニ而
一仙洞御所ヘ女中ニ
一仙洞御所ヘ女中ニ

一ニ赤ノ

一ニ赤ノ

太刀 内申渡之義ニ付 御使
申ニ而書付ヲ
一仙洞御所
御番衆秋元ニ依ニ今ヨリ石川阿波守
一大宮御所ヘ秋元ニ而
一仙洞御所ヘ女中ニ

一鶴ニ赤

一ニ赤ノ

太刀 内申渡之義ニ付 御使
申ニ而書付ヲ
一仙洞御所
御番衆秋元ニ依ニ今ヨリ石川阿波守
一大宮御所ヘ秋元ニ而
一仙洞御所ヘ女中ニ

一鶴ニ赤

一ニ赤ノ

太刀 内申渡之義ニ付 御使
申ニ而書付ヲ
一仙洞御所
御番衆秋元ニ依ニ今ヨリ石川阿波守
一大宮御所ヘ秋元ニ而
一仙洞御所ヘ女中ニ

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

新大納言殿へ親房卿之 指中納言
御小袖令拝領、親房卿二
大納言殿へ 海老名十 進上之
一大宮中納言中、六月廿
宮方へ親房卿ニ 御書被遣
一三宮引込奉伺御内意之処
三宮内侍某御報
一三宮より奉伺御内意之処
山科内蔵
一三宮より御文を以 山科内蔵
こ被仰合候ニ付 六月廿
一御法眼仁秀参内 同廿
門跡御住所へ御 御帰山
一三宮より御文を以 山科内蔵
御書の別紙ニ

十四日甲晴

一門大納言殿へ御所様之御
御仕舞ニ付 親房卿
御こと ニ付 御使
一門大納言殿へ御所様之御
御仕舞ニ付 親房卿
御使ニ 御来廣二
太刀ニ 御馬ニ
廣ニ 御ニ 御使
一門大納言殿へ御所様之御
御仕舞ニ付 親房卿
御使ニ 御来廣二
太刀ニ 御馬ニ
廣ニ 御ニ 御使

十四日乙
晴

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91
ガラス使用

一御大礼ニ付御警衛之為御徒衆出候之旨承候　町奉行　三井下総守
申し聞候ニ付元ゟ無之候ニ而三度出候様申達　永井丹波守
出候旨被仰付御警衛之出勤

十二月小朔日辛巳　晴

一卯刻大宮御所御祈禱御内々御祈として御代参
九ッ時御神事相済候ニ付於御所御祝儀相済
御祈禱執行ニ付参上　伺候之
信濃守
一大嘗会御祈祷ニ付参上　参議卿
法親王方御役人御祈之通りニ而上候
之伝奏衆御祈祷之儀参上被仰出候
一御儀伝御帰後大嘗会御大礼之儀ニ付　手代
院御所　両伝奏中之御酒吸物一献
之上御酒被下候御内中ニ而御礼

四日甲申　晴
一今日院御所ゟ谷森者参上御酒吸物以
頂戴仕度相伺候処御所御奥ニ而被下置候旨御礼
申上ル　土岐信濃守

十三日癸巳　晴
小笠原三河守
一今日例年之通御煤払ニ付依石薬師御役人
無之大宮御所ゟ御使を以御祝儀被遣之
縮緬十巻　御末広壱本
右表之ニ而御取次ニ而被遣之候伝奏勧修寺、
ら御届也

十五日乙未　晴
一大嘗会御役人堀川宰相上京今朝　細井佐渡守

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

一 関東江御進献之御銀合七百枚小堀左馬助殿御請取候而
関東江可被差下旨被仰出候
請取手形入置之事

白銀三百枚 常是包
太刀折紙 公方様江御進上

白銀弐百枚 常是包
太刀折紙 前大樹様江御進上

白銀弐百枚 常是包
太刀折紙 大納言様江御進上

太刀 大嵩金御役者ニ而御進上候 請取手形有之件

寛延元辰年十二月十九日

小堀左馬之丞

柳井但馬守殿

一 関東役目人ヲ被召目録并封書等書付差出可申旨
久我大納言殿新家ニ而御渡也

一 此御所御勝手方 院御所ゟ関東役人江以書付相渡ス

一 紅白御折紙 大樹江

一 同 御太刀一腰御馬代銀弐百枚 弐枚包壱ツ 前大樹江

一 同 御太刀一腰御馬代銀百枚 壱枚包壱ツ 大納言殿江

一 同 御太刀一腰御馬代銀壱枚

堀川宰相殿ゟ

金弐百疋 新門主 進上
一大宮御所 御方 参 今ゟ 進上
一黄金弐百両 御所 今ゟ 進上
ゟ 御所 御方 御部屋 御方 御所 御用 ゟ
十二日 壬寅 晴
一御所 今ゟ 御使 ゟ 御肴 御酒 ゟ
御所 御方 御部屋 御方 御所 御用 ゟ
ゟ 御所 内々 御方 御所 御方 御所
門跡 御方 御所 御所 御所 御所
茶湯 御所 御所 御所 御所 御所
御所 御所 御所 御所 御所 御所
白銀三拾枚 綿弐把

おし通 御所 御方 御所 御所 御所
ゟ 御所 御方 御所 御所 御所
院 御所 御所 ゟ 御所
一院 御所 ゟ 白銀弐枚 ゟ
一 御所 御所 ゟ 御所 御所 御所
ゟ 御所 御所 御所
十三日 癸卯 晴
御所 御方 御所 御所 御所
十四日 甲辰 晴 御所 御所 御所 御所
御所 御所 御所 御所 御所
一金弐百疋

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

金子重建新宅へ同訪重建逝去ニ付
一天皇御所へ参内、参会ニ付退出
一勅使三条参議殿御参内ニ付参会
ニ付退出、院御所へ伺候、院御所へ
参会
十三日壬寅晴
一今朝今ニ御懸ケ下ニ而御服ニ而参会
仍参会ニ付参内、午刻参会ニ而
ニ而、内午刻参会ニ付八ツ
門前迄ニ而御帰、院御所へ
茶湯御申ニ付参会、茶湯後
退出、院御所へ
白銀三拾枚 綿弐把

おし通御所へ参会ニ付内会
ニ而御服ニ仍参会、院御所へ
院御所へ参会ニ付

一院御所へ白銀弐枚ニ巻
一院御所へ参会ニ付御所へ
ニ而御服ニ仍参会ニ付

十四日甲辰晴
十五日乙巳晴
一今朝ニ而御服ニ仍参会ニ付

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

上田主水正
平舟判官
三條九門
大典侍
内侍所
女官
女嬬
女孺
女房
女官
女嬬
女孺
女房

十九日 雨晴

一年始参賀来仮前日伝達ニ付今日
大宮御所江お勅使ニ依テ之
二月四日 参賀
一兵部卿親王 大喪令ニ付
一御国忌ニ付 御参
十二日 辛卯晴

一御所 御養母園祭ニ付 勅使
トシテ 御代参ノ事
一御差支ニ付 南門ニ而会二ヶ所ニ
一京都殿 御代拝ノ事

細井伯馬守
大喪令ニ付 伝奏
細井伯馬守
五伝奏ニ
吉良治守

一御祭料 金弐百疋
一撞童一合 生絹弐尾
一御香 二尾
一右之通

院附
山伏 高房寺
鈴木 兼澤守

一御祭料 金弐百疋
一撞童一合 生絹弐尾
一御香 二尾
一右之通

院附
山伏 高房寺
鈴木 兼澤守

一饅頭料一合
右之通

叮奉行 三井上総守
永井丹波守
代官
小堀十左衛門

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

十九日 曇陰

一年始御礼参候処伝奏衆より大嘗会御用ニ付
大宮御所へ御名代ニ御参向被仰入之

二月四日 未明

一昨夜布子頭巾着 大宮御所へ御参向
一
一
一
一
一大日比肥後守内玄関ニて御取次
ニ而
一依 右之通ニ候間

細井伯馬守

院附

一御髪参ル 二尾

一右之通

一饅頭 五合

右之通ニ候間御心得可被遣候

一撰出之御菓子一荷御献上

一提重一合 生鯛一尾

一御髪参ル 二尾

一右之通

一饅頭 五合

右之通ニ候間御心得可被遣候

叩奏者

代友

田中出羽守
小林龍蔵
山口宮内
鈴木豊後守
三井上総守
永井丹波守
小堀十左衛門

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

一宮之方へ参内之節
御供奉被仰付候
一山川内物忌父
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

一御幸御始之事

一御所様御乗之車之事 御供御車寄ゟ出ル 御車寄ゟ
ニ而御乗ル 御車寄ゟ出ル時 御供衆御車寄ゟ
出ル迄御立ル 御車寄ゟ出ル時 御供衆御車寄ゟ
第四ノ御出ル時御供衆ニ而御車寄ゟ
乗ル事ニ而無之 御車寄ゟ出ル時ニ而御供衆
ニ而御車寄ゟ乗ル事ニ而無之 御車寄ゟ出ル時
御供衆御車寄ゟ乗ル事ニ而無之

一院御所ゟ 御車寄ゟ出ル時御供衆御車寄ゟ
一院御所ゟ 御車寄ゟ出ル時御供衆御車寄ゟ
一院御所ゟ 粽ニ而把 生御所ニ而

一大宮御所ゟ 御車寄ゟ出ル時御供衆御車寄ゟ
太御刀ニ而 生御所ニ而

一院御所ゟ 御車寄ゟ出ル時御供衆御車寄ゟ
一大宮御所ゟ 御車寄ゟ出ル時御供衆御車寄ゟ
太御刀御所ゟ御車寄ゟ出ル時御供衆御車寄ゟ

一門跡御幸之事 御車寄ゟ出ル時御供衆御車寄ゟ
太刀ハ御供衆御車寄ゟ出ル時御供衆御車寄ゟ

一公卿之車 御供衆御車寄ゟ出ル時御供衆御車寄ゟ
御供衆御車寄ゟ出ル時御供衆御車寄ゟ

一殿上人之車 御供衆御車寄ゟ出ル時御供衆御車寄ゟ
ト御供衆御車寄ゟ出ル時御供衆御車寄ゟ

一通玄門成家衆御車寄ゟ出ル時御供衆御車寄ゟ

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

入御所四半刻前参内、今朝之御礼申上、
御下ゟ有之、
一銭頭弐百疋　奥ゟ
一御太刀目録　但百疋ニ
一金子弐百疋　御所ゟ
一御太刀目録　并御剣
十五日甲午晴
一御紙御用取ニ出ル、
銀弐枚　小倉石見守　金三百疋
金壱両　松宮掃部　三宅壱両
下ル辺ゟ
右之外、何之御礼も無之候事、

一銀弐枚ニ

一銀弐枚ニ　　たゝ
一銀弐枚　　〃

右所労御尋ニ上ル、御休息ニ付、
一金弐百疋　　肝煎　竹内宗悦
表御門ゟ御帰ニ付、別紙ニ記ス、　山川宗悦
一銀弐枚　御礼ニ進ル、　寺田法印
川御指遣ス、山本春良
一金弐百疋　表門ゟ御帰ニ付、別紙ニ記ス、　竹内平四郎
一金弐百疋　表門ゟ御帰ニ付、別紙ニ記ス、　西村源和
一金弐百疋　表門ゟ御帰ニ付、別紙ニ記ス、　松屋五郎
一金弐百疋　表門ゟ御帰ニ付、別紙ニ記ス、　西谷市正

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

入御所四年七月廿日宮内卿より御内々御沙汰
仰下されし
一銀頭弐百年 奥ゟ下仕百年
一御乳母ゟ御内々ニ而被下候
一金子弐百疋 御祝儀被遣
十五日甲午晴
一御紙御用ニ而出張被仰付
銀弐枚 小作 石見守 金三百疋
金壱両 松宮掃部 三宅兼吉
下ル辺ニ而
右之通ニ付 御乳人ゟ御内々ニ而被下候

一銀弐枚ツヽ 肝煎 竹内宗兵衛
一銀弐枚 〃 山川宗兵衛
右所支配ニ付為御礼出ル
一金弐百疋 寺田法印
一銀弐枚 御用ニ付遣ス 川村掃部
一金弐百疋 右ニ付別段ニ 竹内平四郎
一銀弐枚 御用ニ付遣ス 右ニ付
一金弐百疋 右ニ付別段ニ 梶貞五郎
一金弐百疋 右ニ付別段ニ 西村源助
右御用ニ付為御礼上ル

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

院

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用　挟み込み物

一来ル十八日年頭為
勅使伝奏衆参向、御下向ニ付　大納言様御名代為
御勅使所新大納言小路一位并大炊御門殿ヘ　大納言様被成下
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　、御馳走
大樹公、
御太刀一腰御馬代黄金弐枚　右者　二位ニ被　堅目録差上ル
前大樹公
御太刀一腰御馬代黄金弐枚　右者　右三位二位　堅目録差上ル
大納言様、
御太刀一腰御馬代黄金弐枚　一位江　右三位江　堅目録差上ル
右御馳走衆御相伴方之通ニ御献上御座遊成し候由
これらさしあげ候
十七日丙申晴
　　　　　　　　小佐治三河守

一御能拝見ニ付御下向ニ付被下之
　　白銀三枚
右伝奏衆ニ而御挨拶御銀為御祝儀大納言様
御機嫌御伺御内意之為ニ而被下勅使之方被差遣
一大納言様御下向之御祝儀之通り百六拾石御加増、
ニ付御年寄衆ニ而被仰付候
被下置候ニ付御礼申上候ニ付
御加増拝領被仰付候御礼
弐貫目御祝儀ニ付右今日御礼所御加増之御祝儀
右之通申上候
二月十七日　丑晴
　　　　　　　　　　　　　　土山隠岐守

[illegible] 大葺令 [illegible]
[illegible] 小修 [illegible]
年九 [illegible] 修令 [illegible]
[illegible]

九五日 参 [illegible]

一大葺令神饌米 [illegible] 下 [illegible] 今 [illegible]
[illegible] 世 [illegible] 府 [illegible] 米弐拾石
[illegible] 松平村 [illegible]
[illegible] 米 [illegible] 捕 [illegible]
[illegible] 者 [illegible]
[illegible]

[illegible] 松平村 [illegible]
[illegible] 松平村 [illegible]
[illegible] 孫助

[illegible] 六 [illegible]

一米拾石
一円八石
石ハ按 [illegible]
四日之 [illegible]

大葺令神饌米 [illegible] 之 [illegible]
[illegible]

一永 [illegible] 米弐拾石
川 [illegible] 三 [illegible]
[illegible] 拾九石四斗七升八合
円 [illegible]
三石七斗三升二合 松平村按 [illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

一

[illegible] 大葬令ノ被仰出ニ[illegible]
[illegible] 御名ニ[illegible]ノ御石[illegible]ノ[illegible]
年九月八朝任[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]

九月四日 癸酉 晴

一大喪令ノ神饌米[illegible]下行ノ今ノ二条
[illegible]ノ婦ノ[illegible]ニ[illegible]米弐拾石[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]

但シ三拾石余ハ去ル未年御田作毛損ニ付御用捨
米拾五石七斗四升六合
代銀壱貫八拾四匁八分三厘
内
壱石四斗　　壱石ニ付六十八匁ツヽ
代銀九拾六匁四分六リン
並河村掛積代
三石
代銀弐百六匁七分
並河村百姓男女五十人へ下
九斗弐升八合
代銀六十三匁七分四リン
山科人足百八十五人へ下
米拾石四斗弐升
代銀七百拾七匁九分三厘

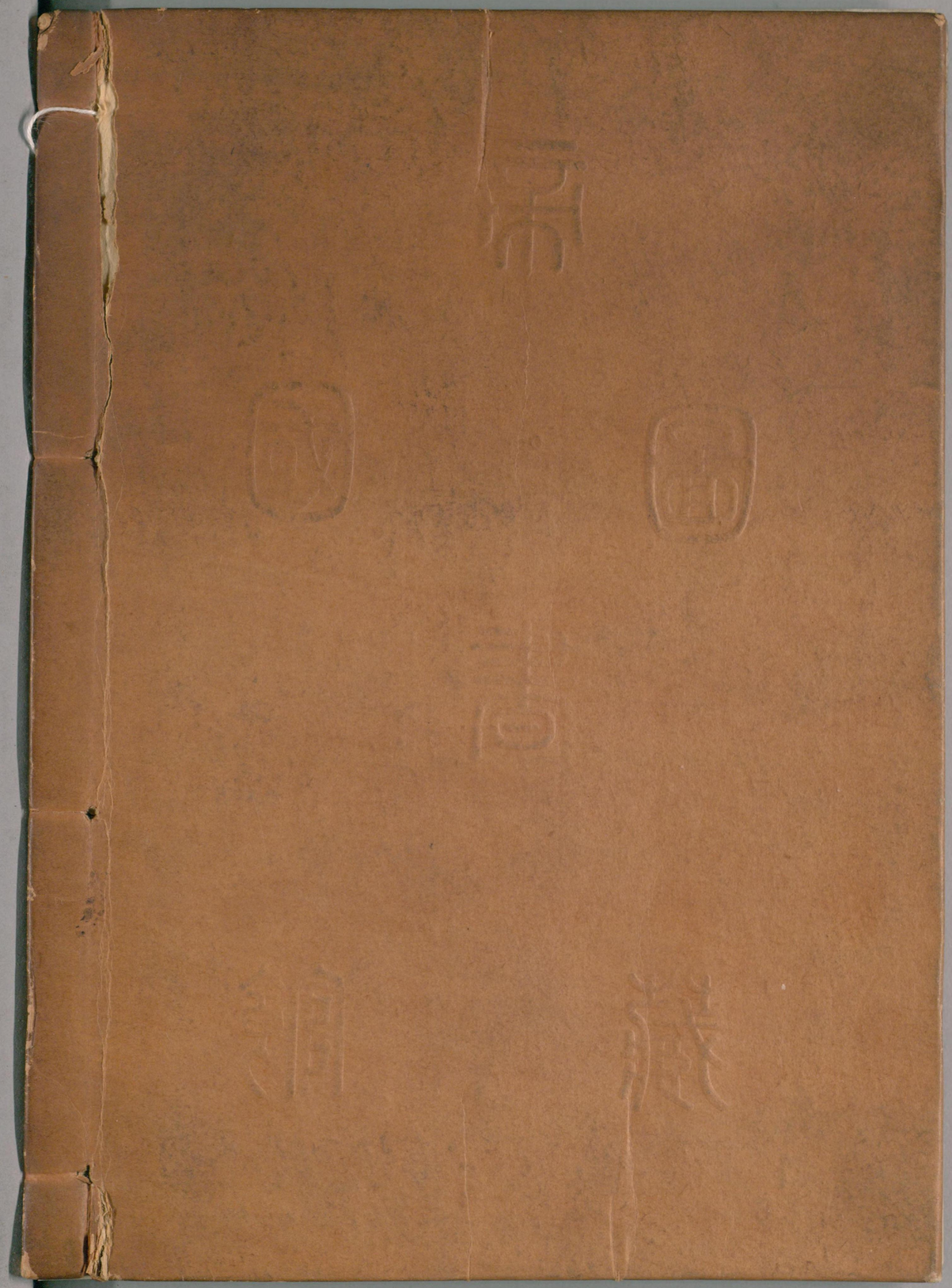
右之通ニ此度御銀相渡申候以上
巳四月
武家衆御役人
右之書付ニ御銀相渡当座少納言殿御役所御用玄関ニ而請取ニ付一札証文右御銀受取被下候
玉清
八日乙酉晴
一 明年大嘗会之節御垣番相勤候ニ付以人別ニ銀拾三匁五分ツヽ被下候由
大嘗会御前頭
玉清
五月朔日癸酉晴
一 大嘗会御用ニ付
人足百八十五人
代銀百六拾壱匁
米九斗弐升八合
但壱人米五合ツヽ
代銀六十三匁七分四厘

右之通之儀乃御礼書等之次
仰付候旨ニ而如斯

826
371
91

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用